

課題

- JR線の減便や路線バスの廃線が行われ、公共交通のサービスが低下しており、現状の公共交通は、市民のニーズを救い切れておらず、自家用車頼みの現状
- 「コミュニティバス」や「デマンドバス」等が存在し、タクシードライバーが地域の足を支えているが、タクシードライバーの離職によるドライバー不足が顕在化しているため、業務効率化の施策やタクシー会社との共存施策の検討が必要である
- 宗像市は事業者単位で利用実績を受領しており、地域全体で一元化したデータ分析ができていない

プロジェクト概要

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]

- 1つのアプリで「公共ライドシェア」「乗合タクシー」「一般タクシー」の配車を可能にするサービス「宗像ライドシェア(愛称:むなりんく)」の構築

[モビリティ・データの取得と活用]

- 公共ライドシェア、一般タクシーの車載器や配車アプリ・システムからリアルタイムなデータを収集(車両データ、属性データ等)
- 運行分析システムを構築し、移動データ、属性データを分析
(活用例)公共ライドシェアのエリア拡大再編、需要ピーク時の配車体制強化 my route(九州MaaS)と連携した観光周遊施策の立案・検討
- マイナンバーカードを活用したモビリティ利用促進策の検討(割引クーポン等)

[エンドコンテンツとの連携]

- my route(九州MaaS)で発券したデジタルチケットを宗像ライドシェア(愛称:むなりんく)で利用可能にすることで、観光利用を促進

効果

- ユーザー: 配車アプリによる利便性とアクセシビリティの向上
- タクシー会社: 配車アプリによる即時予約、配車受付や経路探索等の業務効率化
- 宗像市: データに基づく交通政策の立案と一元的な運行状況の把握による経理業務の効率化

事業の新規性

- 「公共ライドシェア」と多様な交通ニーズに応える「一般タクシーと乗合タクシー」の配車が可能
- マイナンバーカードを活用したモビリティ利用促進策の検討(割引クーポン等)
- 市⇄タクシー事業者の請求業務をデジタル化し、事務作業を軽減(透明性も向上)
- 横展開可能なシステム・サービス群を用意し、全国の地方都市へ展開

事業エリア/交通事業

事業エリア:宗像市全域(2025年度は岬・池野・河東・自由ヶ丘・南郷・玄海地区で実証予定)
交通事業者:新星交通、みなとタクシー、宗像グリーンタクシー、西鉄宗像タクシー

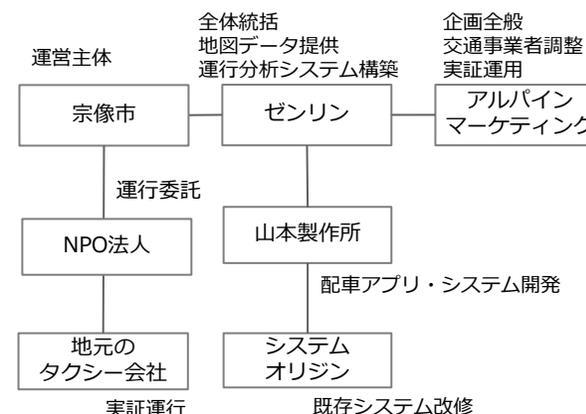
MaaSアプリ等

オンデマンド配車予約・指示システム:ゼンリンを改造
「ZENRIN Maps API」等を利用し新規開発
● 運行分析システム: Re:dash(既存サービス)を利用
● 配車管理システム:システムオリジン「テレハイ」を改造
● ドライバーズアプリ:システムオリジン「みちびき」

データの活用等

- データの取得方法:公共ライドシェア、一般タクシーに車載器を設置し、車両・ドライバー・利用状況などのデータを収集
- データの活用方法:運営主体の宗像市による公共ライドシェアのエリア再編や需要ピーク時の配車体制強化、モビリティ利用促進策の検討等に活用

座組



スケジュール

- 2025年度
- [サービス開発]
- 4月～6月 タクシー配車 要件定義
- 7月～2月 公共ライドシェア実証運行
- 1月～2月 タクシー配車実証運行
- [データ分析・活用]
- 4月～6月 要件定義
- 6月～8月 データ設計・テスト
- 10月～12月 データ分析・課題抽出
- [エンドコンテンツとの連携]
- 5月 要件定義
- 6月 システム開発
- 7月～2月 my routeとのサービス連携